5 月 7 日のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書　15：　12 – 17

「互いに愛し合いなさい」

ちょうど 1 年前、専門学校の学生からこんな質問を受けました。「ロシアのプーチン大統領とウクライナのゼレンスキー大統領の名前が、読み方は違うが同じということを最近知りました。キリスト教と関係ある名前なんですか。」互いに争う二人が、同じ名前を持っていることに驚いたといいます。

調べてみると、プーチンは「ウラジーミル」、ゼレンスキーは「ウォロディミル」という名前でした。ロシア語とウクライナ語の違いはあありますが、どちらも 1000 年前のキエフ大公ウラジーミル一世(ウォロディミル一世)に由来する名前だとわかりました。そして、キエフ公国をキリスト教化した人物で、聖人として崇敬されていることも。

しかし、「同じ名前だから仲良くしなければならない」とすれば、それはそれで奇妙です。世界中の「ポール」さんや「太郎」さんも皆、仲良くしなければならなくなるはずです。そして、それが夢物語であることを私たちは知っています。

また、誰かに命じられたから仲良くするというのにも無理があるでしょう。どちらかが(時には双方が)我慢して続ける関係の先に、真の平和はありません。

「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」(ヨハネによる福音書 15:17)

イエスは全てをわかっておられるはずなのに、なぜ命じられるのでしょう。「ねばならない」で自分を律することは、パウロの言葉を借りれば、「奴隷」のようなものです(「同様にわたしたちも、未成年であったときは、世を支配する諸霊に奴隷として仕えていました。」ガラテヤの信徒への手紙 4:3)。何も考えず、目の前に出されたものを唯唯諾諾とこなすだけに過ぎません。そして、「こなしているだけの関係」は、決して愛の関係と呼べるものではないでしょう。

もちろん、イエスはそのように命じておられるのではありません。神に聞き、神の思いを知る一人として神に応えよ、と命じられているのです(「もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。」ヨハネによる福音書 15:15)。

では、神の思いはどこにあるのでしょうか。どのように私たちに示されているのでしょうか。

聖書は私たちに告げています。神はその愛ゆえに私たちを守り、導かれる、と(「ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。」申命記 7:8)。そのために私たちに独り子イエスを与えてくださった、と(「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハネによる福音書 3:16)。そして、イエスがどれほど私たちのことを愛し抜いてくださったのか(「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」ヨハネによる福音書 15:13)、私たちは知っているはずです。

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」(ヨハネによる福音書 15:12)

イエスと同じように自分の命を捨てることは無理かもしれません。それでも、神に愛された、イエスに愛された一人として、まず何ができるか考えることから始めましょう(「わたしはあなたの命令に心を砕き／あなたの道に目を注ぎます。」詩編 119:15)。真に自由にされた一人として、この世界と向き合うことから始めましょう。

一人ひとりが自覚的に神の愛に生きるとき、互いに配慮し合う、互いに愛し合う平和の道が実現されていきます。「千里の道も一歩から」。今日、この時がその初めなのです。